

見つめて欲しい

職員各位

昨日、配布しました文章を皆さんはどうに受け止められましたか？

私自身は、誰も見ていないだろうとか、知られなかったから良いだろうという気持ちは危険だという事を再確認しました。そのような事は決してないんですね。だってそうでしょう！利用者さんが一番見ているからです。彼らが不満を言わずに我々を逆に見守ってくれているのです。身近にどうしても心を開いてくれないメンバーさんがいませんか？

私には正直何人もいます。彼らは実は私を喜ばしいに者だとは思っていないのです。その原因は私自身に有ることを分かっています。

だからといって、変に特別扱いすれば良いと言うことではないのです。そのことは自分の経験から直ぐに理解できることです。

今回の問題は一体どこにあると思いますか？

メールをくれた方に、勇気と利用者さんを思う純粋な気持ち、それと尚恵学園に対するこうあって欲しいという想いを感じます。

こんな事を言うと嫌われるから黙っていたほうが良いと考える人は沢山います。

私は、決して特定の人の言動を避難する気持ちはありません。それは、例え少数の人の行為が批判の原因になっているとしても、人はそう思ってくれません。今回の百瀬さんや菊池さんの件もそうです。事が起きてから、いくら頭下げても家族は理解してくれません。普段の積み重ねが一番です。それが原点であったはずです。何故彼らは自傷や他害それと奇異な行動をとるのでしょう。これは彼らの本心ではないはずです。何故、このような行動を取るのか？そのことを彼らと共に考え、解きほぐす仕事が我々の役割です。

今回のことを見つめて欲しい。

平成19年6月14日

理事長